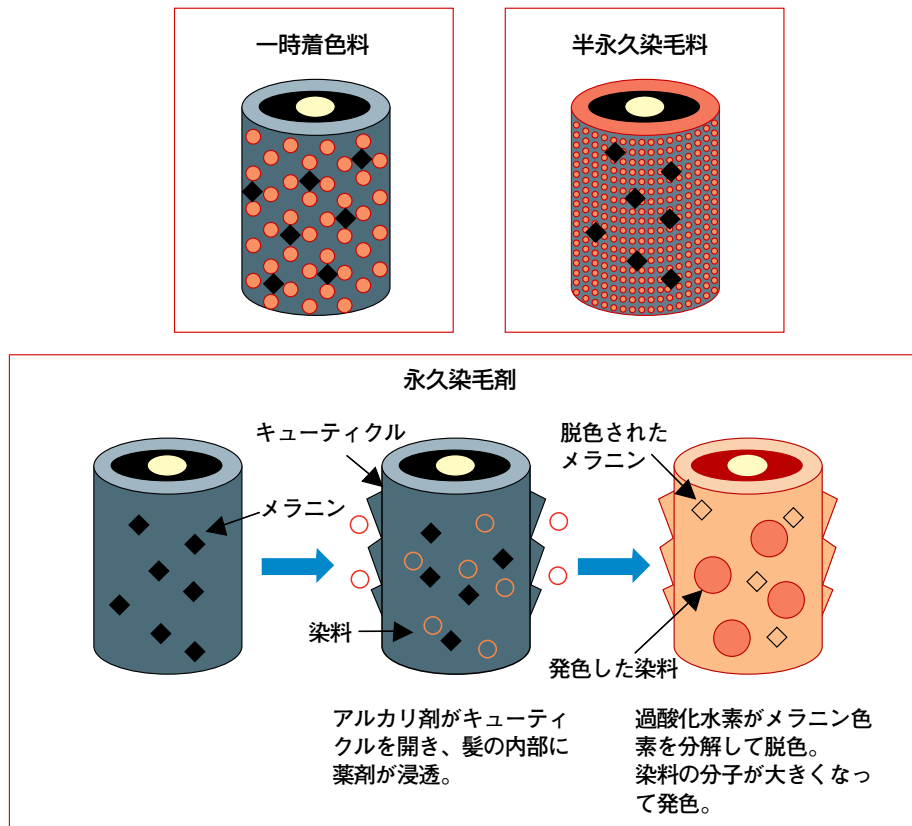


# 03

## 染毛剤

「髪を染めるといえば、白髪染め」というのは昔の話。最近はおしゃれのひとつとして黒髪を染める人が増えている一方、染毛剤によって皮膚がかぶれたり気分が悪くなったりしたという相談も当センターに寄せられています。

染毛剤は、その種類によって大きく3つに分けることができます。カラスプレー等の「一時染毛料（または一時着色料）」は、髪の上に一時的に着色成分を乗せているだけなので、シャンプーで簡単に落とすことができます。ヘアマニキュア等の「半永久染毛料」は、毛髪の上層に酸性染料を浸透させるため、2～4週間程度は色持ちしますが、徐々にもとの髪色に戻ります。最も長持ちするのがヘアカラー等の「永久染毛剤」で、アルカリ剤によって毛髪表面のキューティクルを開き、そこから毛髪内部に薬剤を浸透させ、化学変化を起こすことによって脱色・染色するため、2～3ヵ月間ほとんど色落ちすることがありません。



しかし、「永久染毛剤」は効果が高いだけに身体への作用も強く、頭皮の小さな傷などにも刺激となり得ます。「永久染毛剤」に使用されているジアミン系染料は、アレルギーの原因物質になることもあり、それまで一度もかぶれたことがなくても、長期にわたり使用を繰り返すなどするうちに身体の中に抗体ができて、ある日突然アレルギー反応を起こすという可能性もあるのです。面倒でも毎回必ず事前のパッチテストを行い、かゆみや腫れ、刺激などの異常を感じた場合はすぐに使用を中止してください。



また美容院では施術者を介するため、トラブルが起きたときに問題が複雑になりがちです。使用薬剤の安全性や染毛後のケア方法等について事前に十分な説明を受け、納得した上で施術を受けてください。天然の植物等を原料とした染毛料も一部では使用されていますが、漆でかぶれる人がいるように、天然のものだからといって全ての人にとって安全であるとは限りません。また天然染毛料と「永久染毛剤」を混ぜて使用している美容院もなかにはあると聞きますが、「永久染毛剤」は薬事法上の「医薬部外品」に該当し、他の成分と混ぜて使用することは認められていません。

医療現場では、治療内容の方法や意味、効果、危険性、その後の予想や治療にかかる費用などについて十分な説明を受け、医師と患者の双方の合意のもとで治療を進める、いわゆる「インフォームド・コンセント」が広まっています。美容院においても、ヘアスタイルのことばかりでなく使用する薬剤等についてもよく話し合っ、納得した上で施術を受けることが大切ではないでしょうか。

(平成14年2月)